様式 11　「警察機能を発揮させる機能的な施設づくり」、「万全な防災対策による安全な施設づくり」及び「周辺環境と調和した魅力ある公共建築物としての施設づくり」についての提案

地域と歴史をつなぐ警察署

周辺環境と調和する親しみやすい外観のイメージ

30cm × 10 cm =300 cm²

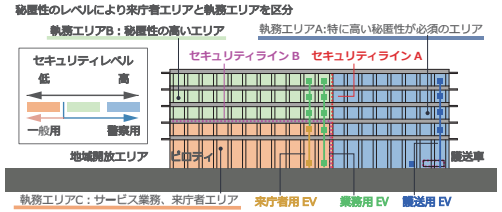
「警察機能を発揮させる機能的な施設づくり」

警察業務の特殊性に適合した、働きやすい執務空間のデザイン

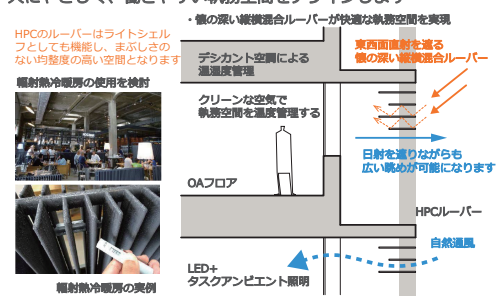
・連携が必要な各課をワンフロアに集約、出動に係る課を低層に配置することで、警員は関係課と日常的に細やかな情報共有ができ、瞬時の連携や迅速な出動ができる環境とすることで、業務の効率化・円滑化をはかり、働きやすいゾーニング計画とします。
・低層化かつ成形でゆとりある平面形状とすることで、見通しのよい執務空間とします。また、スケルトンインフィルを徹底し将来の犯罪の多様化・巧妙化に対応し、フレキシブルに配置転換可能な計画とします。

地域への開放性とセキュリティレベルの両立

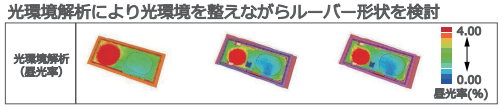
・[交流を行う場]と[秘匿性の高い場]をそのレベルによって明確にゾーニングし、来庁者動線と警察業務動線を明確に分けることで、職員・来庁者の両方がストレスなく利用しやすい庁舎とします。
・視認性が良くアプローチしやすい北側を来庁者用エリアとし、内部からも来庁者が見えやすいつくりで、警員が業務対応しやすい計画とします。



最先端のコンピューテーション設計技術を用い環境に配慮し、人にやさしく、働きやすい執務空間をデザインします

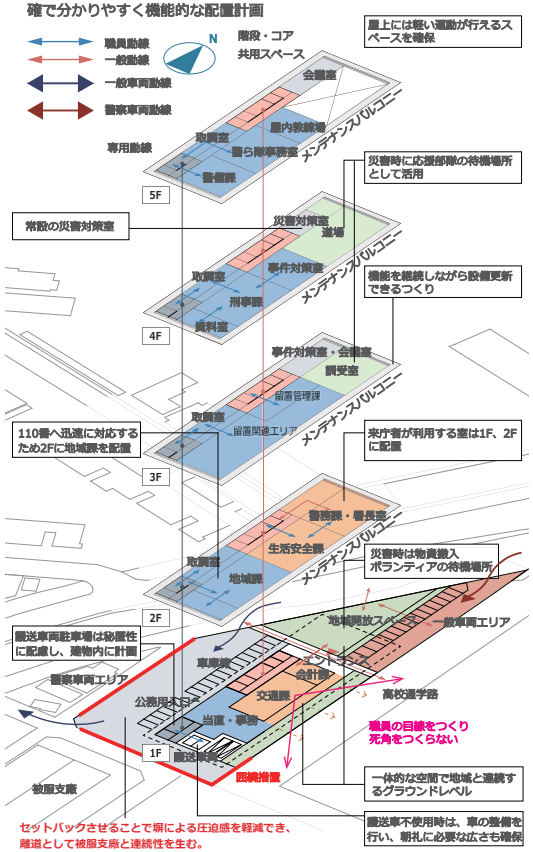


光環境解析により光環境を整えながらルーバー形状を検討



配置・ゾーニング

・開放性のある北側を来庁者アプローチ、南側を車庫、護送、出動動線等のセキュリティーゾーンとすることで、屋外でのセキュリティ区分も明確で分かりやすく機能的な配置計画



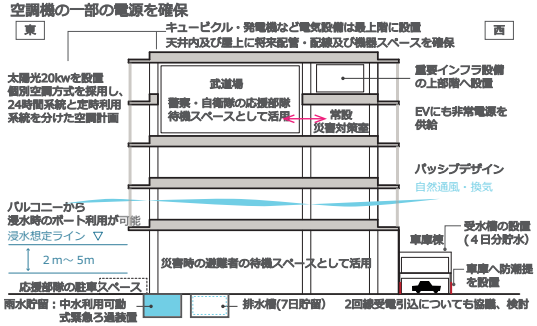
「万全な防災対策による安全な施設づくり」

将来の長期にわたり、防災機能を保持する庁舎

・防災機能にも維持管理が必要であると考えています。防災設備機器の定期メンテナンス、備蓄品の管理など日常的な物品管理、また、建物の耐震性の中長期的な定期点検など、防災機能も維持管理しやすい環境があってこそ継続可能と考え、各種防災機能を日常的に点検が行いやすい計画とすることで、将来に渡って防災機能を保持する庁舎とします。

(災害時の初期対応)
・災害対策本部機能を4Fに常設配置します。隣接する道場は(警察、自衛隊等)の受入れに対応した室とし連携が取りやすい配置とします。
・地域開放スペースは庁舎近くまで車両乗入でき、物資や人の受け入れ、待機が行いやすい計画とします。（東側高校専用路と一体的に使用することも想定。）

(災害時の中長期対応)：BCP事業継続計画への取り組み
・ライフラインの遮断を想定し、多段階のバックアップを有した信頼性の高いBCP防災拠点庁舎とします。
受水槽設置（4日貯水）/排水槽設置（7日貯留）/
７２時間対応型の自家発電により情報機器及び特定室のコンセント、照明、空調機の一部の電源を確保



減災・地震対策

耐震構造かつ地震への強さが維持される長寿命な庁舎
・メンテナンスバルコニーを設け、定期的に躯体の劣化状況を確認しやすい建物とすることで、耐震性を維持管理し安全性を長く保つことができる庁舎とします。また、駐車場にも液状化対策の地盤改良を行います。

洪水、浸水対策

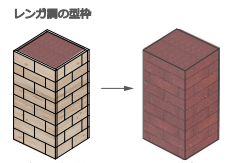
・万が一の浸水に備えて、災害用資機材庫は車庫棟2階部分を利用する計画、災害救助活動、復旧活動に支障のない計画とします。
・高潮による２Ｍ～５Ｍの浸水に備え、２階を高く持ち上げる計画とします。１階はピロティ状の空間となり、防災拠点として避難者の待機場所として活用や、ボランティア受付、物資の搬出入に活用できるスペースとなります。また、出入口に防潮堤を設け、浸水1mまでは業務継続できるつくりとします。
・セキュリティレベルに応じてゾーニングを行うことで、災害時に転用可能な特定室と災害時にも秘匿性の維持が必要な室を整理してプランニングすることで、災害規模に応じて柔軟かつ即時に室の拡張対応が可能な計画とします。

「周辺環境と調和した魅力ある公共建築物としての施設づくり」

まちとつながり、地域に親しまれる“赤レンガ”の警察署

敷地隣にある広島の歴史の一部であり、地域の街なみを守ってきた「広島陸軍被服支廠」と連続した景観を生み出す庁舎を考えます。
歴史あるこの地の建物デザインを継承することで、「赤レンガの警察署」という親しみやすい言葉で地域のみなさんに共有のイメージを生み出します。

レンガ調目地と着色コンクリートによる外観デザイン



レンガ調目地型枠とコンクリートの染色によって、赤レンガと調和する固有の質感をつくる

被服支廠のレンガの街並み

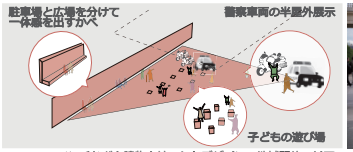
赤レンガの景観と調和し、地域のイメージを形成していく手法として、イニシャルコストと維持管理費が必要な赤レンガの代わりに、コンクリートにその表情を転写させることで、ライフサイクルコストを抑えながら景観と調和し新たな魅力を生み出す外観デザインをご提案します。表面は、光触媒による高耐久の仕上としかつメンテナンスバルコニーを設置することで、定期的な点検を容易とし、魅力そのものを維持管理できる庁舎とします。また、執務空間内部に広島県産材の木材を利用したつくりとします。

学びの場となる新庁舎の広場・エントランス

これからの警察署は、地域と日常的な関わり合いの中で、人々が「正義感や良心」にふれ、考える「学び」の場であると私たちは考えます。
庁舎前のオープンスペースは、「警察の目」に見守られた、どこよりも安心してこどもたちが遊ぶことができる広場になります。ピロティは白バイやパトカーを展示するなど、ポリスギャラリーとして機能させることができます。こどもたちが「憧れ」をいだくような警察のイメージを生み出すことで、地域に親しまれる警察署をつくります。
広場は、人が座り佇みたくなるようなランドスケープデザインを行い、地域の人の憩いの場とすることをご提案します。

写真：警察にあこがれを抱くこども

多世代が遊んだり利用できるベンチをデザイン、白バイやパトカーを展示できるエントランス空間とします。



ベンチなども建物と統一したデザインの地域開放エリア

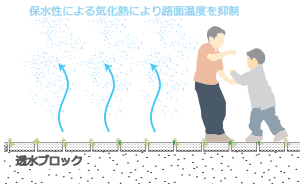
写真：広場のオブジェで遊ぶこども

地域に貢献し、周辺環境を整えるランドスケープデザイン

警察署の玄関は地域とつながる広場となります。広場の舗装は、透水性のレンガブロックなど、地域のイメージ形成につながりかつ路面の温度上昇を抑えることができる舗装とし地域の環境保全に貢献する公共建築とします。

地域開放エリアの地面には透水レンガブロックは透水性により苔や地被植物が生育します。

透水レンガブロック使用例



透水レンガブロックがつくる環境イメージ

「概算工事費」

庁舎棟	建築工事費	1,690,500-千円
	設備工事費	724,500-千円
車庫棟		45,000-千円
外構等		40,000-千円
概算総工事費（税抜き）		2,500,000-千円

基本設計完了時、実施設計基本図完了時に精度の高い概算工事費算出を行い、左記の概算工事費を目安として、確実なコストマネジメントを行います。
ライフサイクルコストの確認も概算工事費算出時に行い、早期に優先順位を整理し、コストバランスを調整したうえでデザインすることで、美しくかつ経済性にも優れた景観デザインとします。